佐賀県 福岡県 大分県 長崎県 藤本市 熊本県 宮崎県 宮崎県 ウル 25km

図1 熊本県地図



図2 調査地位置図

飛尾横穴群2

これは、擁壁を設置する工事中に発見された横穴墓の発掘調査報告書である。

調査の経緯

平成22年11月5日に工事施工者の株式会社杉本建設(熊本市城南町)より 横穴発見の一報が熊本県教育庁文化課に入った。文化課では現地確認のため、 中村主任学芸員を派遣すると共に、工事発注者の熊本県宇城地域振興局土木部 工務課と今後の取り扱いについて、協議を進めた。その結果、発見されたのは 古墳時代の横穴墓1基であることを確認した。同時に、工事予定地には未発見 の横穴が存在する可能性が高いことから、工事範囲について確認調査を実施す ることとした。11月16日に西住主幹・福田学芸員による確認調査の結果、新 たに3基の横穴墓の存在が判明。これらは、既に知られている飛尾横穴群と一 連のものと認定できた。

県砂防課及び宇城地域振興局土木部工務課との協議のなかで、この4基については発掘調査を実施する方針となった。文化課では、文化財保護法に基づく調査実施の手続きを行うと共に、調査体制を整え、平成23年1月6日から14日まで現地調査を行い、その後、調査報告のための作業を行った。

なお、当該地は急傾斜地崩壊対策事業に先立ち、平成19年度に熊本県文化課が発掘調査した「『飛尾横穴群』(熊本県文化財調査報告第246集)として刊行」の近接地であり、本報告においてはこの資料を準用している。

調査の方法

見つかった4基のうち、確認調査で発見された3基については、擁壁施工範囲内(幅25元×深さ15元)での調査をおこなった。なお、既に21基の存在が確認されている飛尾横穴群の続き番号を採用して、22号~25号墓と呼称した。



発見されたときのようす 天井部が陥没して発見された横穴墓



確認調査(擁壁設置範囲) 新たに3基の横穴が発見された



天井部からみた22号墓の状況 奥屍床が明瞭





調査のようす排水しながらの掘削と実測作業

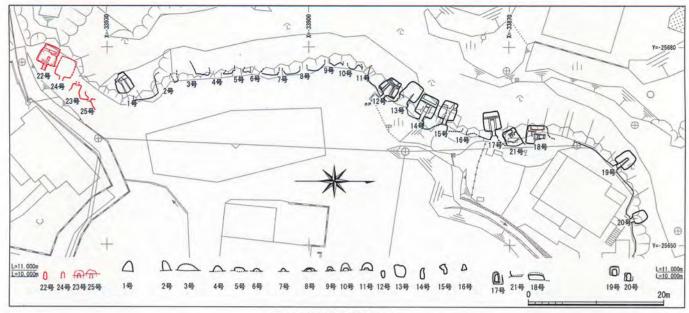
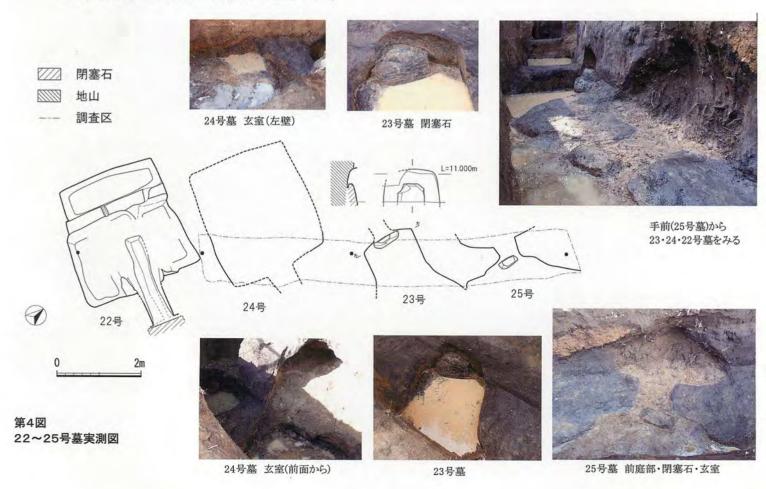


図3 飛尾横穴群位置図

発見された4基は、飛尾横穴群の南端の南斜面に位置し、南東に開口する。既に知られている横穴墓より、標高で 50 cm~1に程度下位に存在する。発見時は道として切り開いてあったが、以前は傾斜地の山林であったという。土層は凝灰岩の風化土が最上面に、直下に凝灰岩が堆積する。その凝灰岩をくりぬいて造られる。

- 22号墓 最南西端に位置する。通路下部で標高約9.7 伝。工事中に天井部が陥没して発見された。落ち込んだ土を重機によすくい上げたため、玄室の一部は破壊。また、奥屍床で鉄刀が発見された。屍床の仕切り壁は、奥壁と左壁の一部が残存していた。閉塞石も残存。玄室の規模は2.8 伝×2.8 伝の方形で、壁の立ち上がりから推測すると、天井部はドーム型である。
- 23号墓 羨門・閉塞石が残存。閉塞石は工具痕が残る上端部から下位を確認。その規模は幅60 cm×高さ40 cm以上であり、20 cm以上の厚さを確認した。下部を手前に、上端を奥に斜めに立てかけた状態である。石材は凝灰岩で硬質。前庭部は25 号墓と共有している可能性が高く、閉塞石の位置から、他の横穴墓より、玄室の位置はより奥に存在することが分かる。
- 24号墓 玄室の1/3程度を確認した。後世の客土で全て埋め尽くされており、その中から6世紀後半のものであろう須恵器(提瓶)が出土した。残存している玄室の方向性からも、隣接する22号墓と同規模と推定される。他の横穴墓の状況から、未調査区内に閉塞石が残存している可能性が高い。
- 25号墓 羨門・前庭部・閉塞石・玄室の一部を確認。上部は削平。前庭部は23 号墓と共有する可能性が高い。閉塞石は幅40 cm×厚さ20 cm。23 号墓の閉塞石と比較すると軟質である。



22 号墓

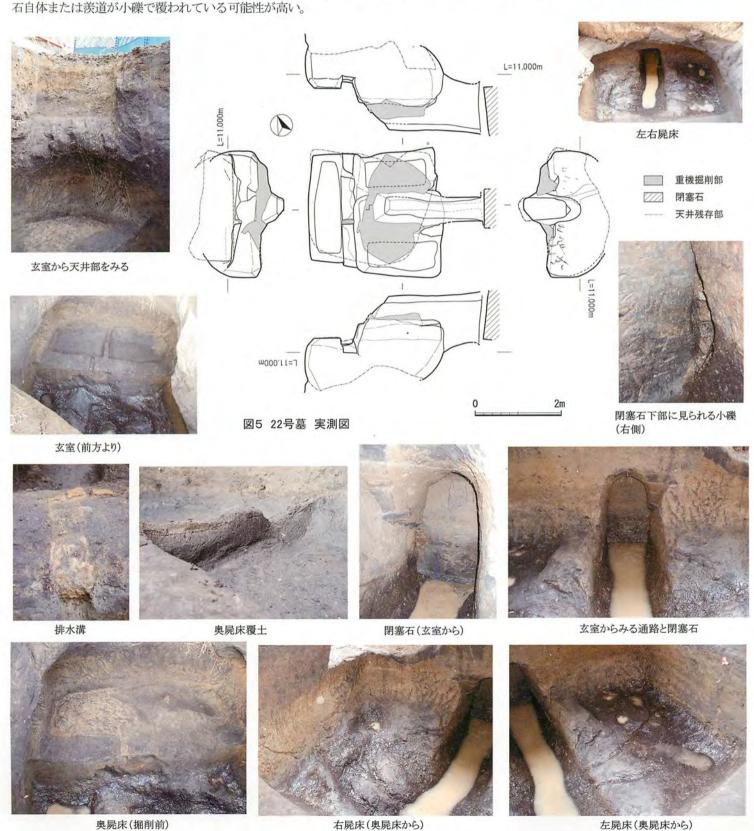
玄室と通路の調査ができたので、詳細を報告する。

奥屍床及び左屍床は、堆積土が残存しており掘削をおこなった。奥屍床では屍床の長軸に直交する土壌観察ベルトを設定し、堆積 状況を確認した。上部に粘質土、下部に砂質凝灰岩という二層の堆積を確認した。両層ともに不明瞭ながら、骨片と思われる細片が 混入していたが、特に下部層においては、中央南端に集中部が見られた。

覆土は、微細遺物を検出するため、一旦土嚢袋に集めることとして、観察ベルトに直交する区画を設定して、左奥をA、右奥をB、左手前をC、右手前をDと四分割した。後日、水洗作業を行ったが、小玉の一点すら確認できなかった。

なお、奥屍床は左右の屍床より約50 cm高く、仕切りの壁の厚さは約20 cmでしっかりしている。中央左寄りに小規模な排水溝を持つ。幅10 cm×深さ8 cmで通路側へ傾斜する。確認できなかったが、中央右寄りにも同様の施設が存在していた可能性がある。排水路の覆土は茶褐色粘質土であり、この上部から小型の鉄刀が置かれるような状態で出土した。

左屍床は若干覆土が残存していたが、湧水もあり不明な点が多い。覆土の水洗をおこなったが、何も出土しなかった。 閉塞石は、内側から見る限り、幅 50 cm×高さ 90 cm以上である。左右にはこぶし大以下の小礫が存在しており、閉塞石前面は、閉塞石自体または羨道が小礫で覆われている可能性が高い。



出土遺物



提瓶(23号墓 客土)



鉄刀(22号墓 奥屍床)







鉄刀(22号墓 排水溝上部)

おわりに

今回の調査では、工期との調整や調査体制など、すべてに緊急対応をとる必要があり、調査作業も職員で実施した。破壊される部分の最小限の調査となったが、22 号墓を始めとして、幾らかの貴重な情報を得ることができた。22 号墓は『飛尾横穴群』で報告されている15 号墓に類似し、玄室構造からは大規模の部類となり、第246集で報告されている第2類の範疇であろう。

今回の発見で飛尾横穴群は二段以上の形成である可能性が出てきた。さらに、未発見の横穴が存在している可能性が高い。 出土遺物は、須恵器の提瓶(口縁端部の直径 10cm)1 点、鉄刀 2 点であった。22 号墓奥屍床出土の鉄刀は、欠損しているものの、残存長 38cm 以上ある。刃部幅は 2.5~2.8cm。また、排水溝上部出土の鉄刀は、全長 19cm 以上、刃部幅 2.0~3.0cm である。

発見の一報から、緊急調査の実施においては、県土木部砂防課及び宇城地域振興局土木部を始めとする、関係者の皆様のご協力のおかげです。ここに感謝を申し上げます。

調 查 者 熊本県教育委員会文化課 文化財調查第二係

【現地調査】 西住欣一郎(主幹) 廣田静学(参事) 木村元浩(参事) 福田匡朗(学芸員) 多賀晴司(非常勤職員)

【報告書作成】佐藤淳子・江見恵留・加藤早織・今田里枝(非常勤職員)

松本裕子・宮崎典子・府内博子・手嶋裕子・大塚トシ子(臨時職員)

報告書抄録

ふりがな	とびのおおうけつぐん 2					
書名	飛尾横穴群 2					
副書名	飛尾急傾斜地崩壊対策事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書					
巻次						
シリーズ名	熊本県文化財調査報告					
シリーズ番号	第267集					
編集者名	木村 元浩					
編集機関	熊本県教育委員会					
所在地	〒862-8609 熊本市水前寺6丁目18番1号					
発行年月日	2011年(平成23年)3月31日					

例言・凡例

- 1 座標は世界測地系(日本測地形2000)使用。 方位は座標軸を基にした座標北を使用。
- 2 出土遺物は熊本県文化財資料室 (熊本市城南町沈目1669)に保管。

ふりがな	ふりがな 所在地	コード		コレ を生	± 4₹	調査	調査	到本店田
所収遺跡名		市町村名	遺跡番号	北緯	東経	期間	面積	調査原因
とびのおおうけつぐん 飛尾横穴群	くまもとけんくまもとし 熊本県熊本市 じょうなんまち 城南町 ひがしあたか 東ぎとびのお 字飛尾	43341	115	32° 41′ 39″	130° 43′ 34″	20110106 ~ 20110114	22 m²	飛尾急傾斜 地崩壊対策 事業

所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構	主なi	特記事項	
飛尾横穴群		古墳時代後期	横穴墓4基	須惠器	鉄刀	

要 約 工事中に発見された4基の横穴墓の緊急調査を実施した。3基には閉塞石の残存を確認した。大 半は工事に直接影響を受けないので、擁壁設置後もその下部にそのままで保存されている。 この電子書籍は、熊本県文化財調査報告第267集を底本として作成しました。 閲覧を目的としていますので、精確な図版などが必要な場合には底本から引用 してください。

底本は、熊本県内の市町村教育委員会と図書館、都道府県の教育委員会と図書館、考古学を教える大学、国立国会図書館などにあります。所蔵状況や利用 方法は、直接、各施設にお問い合わせください。

書名:飛尾横穴群

発行:熊本県教育委員会

〒862-8609 熊本市中央区水前寺6丁目18番1号

電話: 096-383-1111

URL: http://www.pref.kumamoto.jp/

電子書籍制作日:2015年12月24日